

現場のおもい

～良いコンクリート構造物を作る！！～

平成30年度瑞浪恵那道路釜戸地区下部工事

株式会社 中島工務店

現場代理人 中島 源さん



コンクリートは成長も老化もする

ひと昔前までコンクリート構造物は約50年の寿命と言われていましたが、品質管理をしっかり行うことにより、100年もつようになります。

コンクリートは生き物であり、成長もすれば老化もします。

打設してから1年でセメント強度の95%が発現すると言われていますが、そのためには打設してからの初期養生が非常に大切となります。人と同じく若いうちの躰（養生）が重要で、それがよいと良い（密実・頑丈な）コンクリートになります。

鉄筋コンクリートを人に例えると、コンクリートは肉・鉄筋は骨であり、どちらが欠けても丈夫な体（鉄筋コンクリート構造物）にならないのです。

そのためにも、施工時にはコンクリートを締め、余計な空気を抜くことに重点を置いています。

またコンクリートの養生期間（固くなるまでの期間）には、水が必要不可欠なため、コンクリート表面が乾かないよう気象条件等に気を配りながら施工しています。



整然と組みあがった鉄筋



コンクリートを打ち込む様子

ぶち工夫～白い長靴～



白い長靴の作業員

現場作業に必須アイテムの長靴。指先保護のため、つま先部が鉄で覆われたもの（いわゆる“安全靴”）などがありますが、今回は「色」に着目しました。

カラーバリエーションが富んだ長靴が存在する中、白い長靴には、隠れたメリットが存在します。

土木は屋外現場が多く、時には炎天下の作業になります。黒い長靴は色が濃いため、日光を吸収し、とても暑くなります。その点、白い長靴は日光を反射するため、熱くなりにくく足元が快適になります。

ちょっとした工夫が快適な現場作業に繋がるのです。